

上高地から焼岳に登って

令和元年10月10日、朝3時に車で家を出て松本から沢渡に行き、そこで車を置きバスに乗りかえて上高地に向かいました。私が初めて焼岳に登ったのは東京工業高校の夏のキャンプのときで、そのときの感動が私を山へと向かわせる原動力となり、これまでに日本の百名山を全部制覇しました。

台風の前は山は天気が良いと知っていたので、焼岳に日帰りで行こうと思い立ちました。思った通り、良い天気です。上高地でバスを降りて梓川沿いの遊歩道を歩いて行くと、サルの子に出会い、人慣れしているようで、おとなしくしていました。この道は平成20年に自転車で上高地を1周した道で、そのときはサルの群れに出会えませんでした。



落葉松、白樺の樹林帯を抜け1時間ほど行くと、アルミと鉄製の梯子が垂直にかかった岩壁になり、その垂直の梯子を登りました。その先の梯子は右に左にジグザグになっており、それが終わると稜線になり、中尾峠小屋で休憩を取りました。ここは樹林に囲まれていて見晴らしはよくありません。そこから10分ほど登ると見晴らしのよい場所に出て、そこからは傘ヶ岳が見えました。傘ヶ岳には平成2年9月20日に登り、遠くに見えた白山は平成4年10月16日に登りました。山々が美しく、感動のひと時でした。焼岳は活火山なのでいつ噴火するか分かりませんから、ヘルメットの貸出しをしていました。外国人の男女が多数登ってきており驚きでした。今年の紅葉は美しくなく、葉っぱが茶色にチリチリになり道に落ちていました。

山登りので一番心に残っている思い出は、高校3年の時の列車の中の事です。早朝の列車に乗り込むとボックス席に若いカップルが座っており、その1つが空いていたので座らせてもらいました。しばらくして女性が箱を取り出しました。中には美味しそうなケーキが3つ入っていました。2つは若い2人が、そして残りの1つを私に勧めてくれたのです。とても美味しいケーキでした。列車の中は和やかに会話が弾み、とても楽しかったです。そして翌日、焼岳の山頂でその2人に偶然出会い、楽しい挨拶をして別れました。

最近は山に登っても、山小屋に泊まっても会話が少なくなったように感じますが、これは山だけの事ではありません。日常生活でも近所の人と楽しい会話を和やかにすることがなくなりました。私は人との交流が、現代にはかなり必要だと思います。すべてが何か変に個人主義です。それはともかく、その日の夜8時に自宅に着き、この年齢で登山ができた事を嬉しく思いぐっすり眠りにつきました。

(東雪・高野英毅)

地域の見守りの大切さ

自治会の推薦を頂き、民生児童委員となって3年になります。石川台でお世話になって数十年、ひとり暮らしの方への訪問は地図を片手にご自宅を探し、ドアの前で深呼吸、会話の下手な私でもまずはニコッと笑顔になると、少しずつお話ができてうれしくなります。地域の方々との出会いも増えると、この町を守っているという情熱を感じます。

10月の台風で、自治会の方、防災の方、色々な方々が強風雨の中をパトロールされている姿に会いました。自治会長の手塚さんが、お一人暮らしの方の心配もしてくださる姿に、地域の方々の見守りの大切さと温かさを感じます。

民生児童委員は、子どもたちへの見守りもしております。児童館のお手伝い、学校行事参加等、子どもたちとのふれあいを温かいつながりとしてたいです。小学校でも、お父さんが、子どもたちの安全を守る為、積極的に活動に参加されている学校が増えていました。地域の方々の、人を思いやる心、温かさに触れ、地域の見守りの大切さを学び、微力ながら私も頑張っている皆さんに元気と笑顔を届けたいと思っています。

(雪谷石川台・宮田百合子)



雪谷地区民生委員児童委員退任・新任のお知らせ

昨年11月をもって、15名の雪谷地区民生委員児童委員が退任され、12月から新しく15名の方々が委員として就任されました。退任の皆さまには永年にわたり雪谷地区の地域福祉にご尽力いただきありがとうございました。新たに就任された皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

＊ ＊ 編 集 後 記 ＊ ＊

あけましておめでとうございます。

令和の時代が始った昨年には、記録的な大雨をもたらした台風が、大きな被害の傷痕を残しましたが、天皇陛下の即位の儀やラグビーワールドカップでの日本選手の活躍など明るい話題もありました。

今年は、自然災害のないように、また、東京2020オリンピック・パラリンピックが皆さんに元気を届けてくれることと思います。

雪谷地区の皆様から声をお寄せいただき、編集委員一同地域のためにより良い情報をお届けできるよう頑張ります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

(笹丸・小久保衛子)



[編集委員]

笹丸・小久保 衛子／雪谷石川台・倉田 清子／南雪谷・河野 洋一郎／東雪谷東中・秋山 一雄／池の台・柏 三八子／小池・原 龍興／上池上・船山 康夫

ふれあい雪谷

令和2年1月 新年号 通巻第117号



パステル^{なごみ}和アート「初日の出」
希望ヶ丘・大久保江里子さん

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行)
[発行日] 平成31年(2019年) 新年号 1月1日(通巻・第113号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] 「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html



明日へつなぐ -小池小学校-

新年、明けましておめでとうございます。

新しい年の始まりを迎える景色は、国ごとに違います。門松・鏡餅・おせちなどお正月ならではの景色やしきたりの体験を繰り返しながら、私たち自身も日本人らしさを自分に染み込ませていくような気がします。この景色は、各家庭でもまた、違います。新しい年を迎える年の瀬の準備からお雑煮の味付けまで、目に見えることから見えないことまで、次の世代へ、またその次の世代へ、さり気なく、でも確実に伝えたいことが、それぞれの家庭にあるのではないかと思います。

6年生は冬休み前の2学期に家庭科で「我が家の年末年始・大作戦」という学習に取り組みました。気持ちよく新年を迎えるために自分にできることを考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善することを通して、課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う活動です。同じようで違う「我が家の年末年始」を児童一人ひとりが思い返し、家族が行っている具体的な仕事を調べ、なぜ行っているのか、どのような思いや願いが込められているのかをインタビューし、自分にできることを考えます。冬休みの今は、その計画を工夫しながら実践しているはず。新学期が始まったら、自分が取り組んだ工夫や自己評価、家族の感想などをまとめ、友達の意見ももらいながら振り返り、新たな課題につなげていきます。

家庭科と言えば味噌汁を作った、ご飯を炊いた、ミシンを使ったなどの実習を思い起こされる方も多いかと思います。それも家庭科の学びの1つですが、それらの体験を通して知識や技術、考え方などを身に付け、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することが最終的な目標なのです。2年間の家庭科での学びを活かして、我が家らしく新年を迎えるために、家族の一員として、6年生の子どもたちがいまどのような時間を過ごしているか、とても楽しみです。学校での学びは実生活に還元されてこそ意味があると思っています。

それは家庭科だけではありません。それぞれの教科でそれぞれの教科ならではの見方や考え方が身に付き、それらを使って豊かな「今」を、それはつまりみんなにとっての明るい明日をつくることにつながってほしいと思うのです。

(小池小学校校長・松橋尚子)



患者さんとの出会いを通して学んだこと

私が3年間の学校生活の中で一番印象に残っていることは、1年生の実習の時の患者さんとの出会いです。

1年生の頃は今よりも、知識や看護技術が未熟でした。患者さんの身体を拭くのに戸惑いばかりで、思いどおりにできませんでした。私は、患者さんに迷惑をかけ、不快な思いをさせてしまっただろうと思い、身体を拭き終わった後に「上手くできなくてすみません」と謝りました。ところが、患者さんは涙を流しながら「ありがとう」と言ってくれました。

私は嬉しい気持ちになったと同時に感謝してもらえたことに驚きました。推測ではありますが、拙い援助であっても、“患者さんに気持ちよくなってほしい”という私の思いは伝わったのではないかと思います。相手を思いやる気持ちを持って援助することの大切さを、その患者さんとの関わりを通して学ぶことができました。

実習中、患者さんの話を聴くことしかできず、もどかしさを感じることもあります。患者さんに寄り添って思いを聴くということとはとても大事なことです。看護学校では実習を通して、教科書だけでは学ぶことができない多くの学びを得ることができていると感じています。患者さんとの出会いに感謝しながら、理想の看護師を目指して日々学んでいきたいです。

(東京都立荏原看護専門学校3年・武捨優香)



スポーツ健康都市宣言記念事業 第36回大田区区民スポーツまつり

雪谷地区9自治会スポーツまつりが
10月20日小池小学校にて開催され、1,200名
を超える方々にご参加いただきました。

優勝：東雪自治会 準優勝：希望ヶ丘自治会 3位：上池上自治会

雪谷地区情報マップ 『いきいき雪谷ふれあいマップ』

雪谷地区自治会連合会と上池台地域包括支援センター、雪谷特別出張所が連携し、2月中旬の完成を目指して、雪谷地区の情報を盛り込んだ地図の作成を進めています。



検討委員会



まち歩き実踏

マップには、防災関連情報、福祉施設の案内を掲載します。また、健康づくりのポイントとして、雪谷地区のまち歩きルートを紹介いたします!!

毎日の積み重ね -大森第十中学校-

この4月に大森第一中学校から着任しました校長の今井兼一です。私は、学校の役割は子どもにしっかりとした学力を身に付けさせること、自立した人間としての基礎を育てることと考え、学校・保護者が毅然とした態度で子どもに接し、厳しく・温かく、きめ細やかな指導を続けていかなければならないと考えています。

大森十中の生徒には、「上級生が下級生の手本になる」学校がいい学校だと話しています。これは一朝一夕にはできません。毎日の積み重ねがとても大切だと思います。校内の様子を見ると学習面・運動面、運動会や十字祭などの学校行事で生徒諸君の頑張る姿に自信が生まれていて頼もしく感じています。今後も家庭学習での振り返りに力を入れ、学んだことを定着させるよう努力して欲しいと思います。また上級生には、お互いが高め合っていくために学年・学級の“絆”とともに歩んでいく姿を手本で示して後輩につなげて欲しいです。それが伝統であり大森十中の歴史になっていくと思います。教職員一同で頑張っていきます。ご理解、ご支援の程、よろしくお願いします。

(大森第十中学校校長・今井兼一)

風水害に備えて

昨年は風水害による災害の多い年で、8月末には北九州で記録的な豪雨となり、9月初めには台風15号が、10月には未曾有の規模とも言われた台風19号が相次いで関東地方を直撃しました。

台風19号到来の際には呑川流域に避難勧告が出されました。南雪谷自治会では、地区内の川に隣接している部分とその近傍の住民の方のために緊急避難所として自治会館を開放し、会長以下数名が詰めることにしました。また、我が家においては、呑川流域に住む長男家族、鶴見川流域に住む長女夫婦らを早めに避難させ、我が家で一緒にたてこもることにしました。結果としては、災害に備えた十分な治水のおかげで浸水などの被害は杞憂に終わりましたが、逃げ遅れが原因で亡くなることの多い水害への対処としては正しい判断であったと思っています。

地球温暖化防止への各国の足並みが一向にそろわないことから、当分の間は温暖化が進み、台風や豪雨がさらに激しくなることが予想されます。今後もカラブリを恐れず早めの判断で行動を起こすよう、心がけたいと思います。

(南雪谷・河野洋一郎)

